

教育研究業績書

2017年10月20日

所属：心理・社会福祉学科

資格：教授

氏名：佐方 哲彦

研究分野	研究内容のキーワード
臨床心理学 カウンセリング心理学 青年心理学	ロールシャッハ法 青年期心性 アイデンティティ 自己愛
学位	最終学歴
学術修士	大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程 満期退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 視聴覚教材の利用	～現在	授業に関連するビデオ教材の視聴や、パソコンを使ったスライドショーなどを積極的に用いて、授業内容の理解促進を試みている。
2. 心理学への興味・関心の促進	～現在	ゼミにおいて様々なワークを行い、体験授業を試みている。授業では、クイズ形式の問題を解かせたり、面白い具体例を提示したり、心理テストを実施したりして、心理学への興味・関心を高めるための試行を行っている。
3. 授業時間外の指導	～現在	オフィスアワーや空き時間を用いて、学生の個別指導を積極的に行っている。ゼミ生の学習相談や卒論指導、大学院生の事例スーパービジョンや修論指導など。
2 作成した教科書、教材		
1. 心理学英和・和英基本用語集	2010年03月	小花和・安藤・佐方（編著）で、学科の心理学担当教員の協力を得て、心理学の文献講読に活用できるコンパクトな用語集を作成。福村出版より公刊。
2. 障害援助の臨床心理	2007年09月	臨床心理士を目指す大学院生のために共同執筆した教科書。「人格障害の心理」の章を担当した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 認定カウンセラー（139号）	1995年07月～2002年06月	日本カウンセリング学会が認定するカウンセラー資格（更新せず）。
2. 臨床心理士（0116号）	1988年12月～現在	日本臨床心理士資格認定協会の資格。実施初年度に取得し、更新中。
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 新・青年心理学ハンドブック	共	2014年1月	福村出版	日本青年心理学会（企画） 現代の青年たちを新たな視点から理解するために、日本の青年心理学研究の動向を中心に、今日的課題をトピックスとしてを取り上げながら執筆されたハンドブック。「価値観の発達」（pp. 259-268.）を担当。
2. 自己愛の時代—現代社会の病理の解明に向けて—	共	2010年12月	ぎょうせい（現代のエスプリ）	山崎久美子・妙木浩之（編） 人間の根源的な心性である自己愛の問題を、心理学や精神医学など多方面から考察した論文集。「自己愛パーソナリティの測定」（pp. 9-19.）を担当。
3. 先生とスクールカウンセラーのための不登校生支援ハンドブック	共	2010年11月	学研エデュケーショナル	近藤靖宏（監修） 教育現場で不登校の児童・生徒と関わっている教師やスクールカウンセラーのためのハンドブック。「不登校の発達障害児への支援」（pp. 32-36.）と「カウンセリングにおける転移と逆転移を学ぶ」（pp. 193-199.）を担当。
4. トラウマとPTSDの心理援助—心の傷に寄りそって—	共	2009年09月	金剛出版	杉村省吾・本多修・富永良喜・高橋哲（編） トラウマとPTSDをキーワードに、被害者支援経験者

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
5. 認定カウンセラーの資格と仕事	共	2006年08月	金子書房	が自らの経験と省察を綴った緊急支援のための実践マニュアル。「トラウマとPTSDの変遷」(pp. 13-24.)を担当。
6. さまよえる青少年の心(シリーズ 荒れる青少年の心: アイデンティティの病理)	共	2004年09月	北大路書房	日本カウンセリング学会(編) 田上不二夫ほか 日本カウンセリング学会の「認定カウンセラー」について、その仕事の内容と資格取得の方法等について解説した書籍。指定校である武庫川女子大学大学院文学研究科心理臨床学専攻の概要について説明した。pp. 200-203.
7. 第4版・心理テスト法入門—基礎知識と技法習得のために—	共	2002年09月	日本文化科学社	谷冬彦・宮下一博(編著), 佐方哲彦ほか31名執筆 荒れる青少年の心をアイデンティティの病理という観点から追求した書籍。病理的なアイデンティティをもつ青年を発達臨床心理学的に体系的考察を行っている。「病理的なアイデンティティの形成メカニズム」(p. 11-24.)を担当。
8. 青年心理学事典	共	2000年10月	福村出版	松原達哉編 執筆者多数 現在、日本の心理臨床や教育の現場で利用されている心理テストの基礎知識と技法を学ぶための簡易ハンドブック。「エリクソン心理社会的段階目録(EPS I)」(pp. 246~247)を担当。
				久世敏雄・斉藤耕二監修 執筆者多数 青年を理解し援助・指導をするためのキーワードを集大成した事典。「自己愛人格」(p. 362)の項目を担当。
2 学位論文				
3 学術論文				
1. パーソナリティ障害の典型的な事例創作の試み	単	2010年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要第12号 pp. 1-9.	精神疾患の診断・統計マニュアルDSM-IV-TRに記載されている10タイプのパーソナリティ障害について、その診断基準と診断的特徴をもとに典型的な事例の創作を試みた。
2. 女子短大生の自我状態と精神的健康の関連について	単	2009年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要第11号 pp. 1-6.	女子短大生の自我状態と精神的健康がどのように関連しているかを、エゴグラムSGEと不安検査STAI、一般的健康調査GHQ60を用いて検討した。
3. 女子短大生の自己愛傾向と自我状態の関連について	共	2008年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要第10号 pp. 27-35	共著者: 羽川可奈子 女子短大生を対象に、自己愛傾向とエゴグラムで測定される自我状態とどのように関連しているかを検討した。
4. 女子青年における自己愛傾向と精神的健康との関連について	共	2008年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要第10号 pp. 9-15.	共著者: 羽川可奈子 女子短大生を対象に、自己愛傾向と不安および精神的健康との関連について検討した。
5. 女子短期大学生のフリーター観に関する研究	単	2005年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要第7号 pp. 17-25.	女子短大生がフリーターをどのように見ているのか、自分がフリーターになる可能性をどのようにとらえているかを質問紙調査した。
6. 心理学の論文作成における文献引用の書式について	単	2003年12月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要5号 pp. 61~68	大学院生や大学生が心理学の研究論文を執筆するとき、すなわち修士論文や卒業論文を作成する際に必要な知識として、文献引用の書式に関する基本ルールをマニュアル的にわかりやすく解説した。
7. 大学生の「いじめ」に対する態度	単	2000年03月	和歌山県立医科大学教養部紀要 29巻	「いじめ」問題の当事者である児童生徒と、彼らに直接かかわっている教師や保護者との中間にある大学生が、どのようないじめ体験やいじめ観をもっているかをアンケート調査した。大学生の場合、教育指導者に比べて、より現実的な考えをもっていることがわかった。全 (pp. 17~30)
8. 生徒指導における個別指導について	単	1999年03月	和歌山県立医科大学進学課程紀要 28巻 pp. 1~10	教師向けに生徒指導における個別指導のあり方を概説した論文。正しく生徒を理解し、個別に教育相談を行う方法について、注意すべき点を明らかにしながら論述した。
9. 教師や保護者は「いじめ」をどう見ているか—アンケートの回答から—	単	1997年03月	和歌山県立医科大学進学課程紀要 26巻 pp. 1~10	いじめ問題に取り組む指導者の研修会で、教師や保護者が「いじめ」に対してどのような意見を持っているのかをアンケート調査した。指導的立場にある教師や保護者は、問題を他人事化した、理想論のないいじめ観をもっていることがわかり、彼らの態度や意見には齟齬がみられた。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
1. 女子大学生のボディイメージ-摂食障害の予防的アプローチを考える-	共	2011年9月	日本心理臨床学会第30回大会	共同発表者：北垣さやか・杉村省吾 女子大生のボディイメージの歪みが摂食障害傾向とどう関係しているかを調査し、摂食障害を予防するためのアプローチについて考察した。
2. 保育士の気になる子どものとらえ方-発達臨床心理用語に対する認識との関連-	共	2010年03月	日本発達心理学会第21回大会	共同発表者：小花和W. 尚子・羽川可奈子・則定百合子・井上雅勝・井関良美 保育士が発達リスクをもつ気になる子どもたちをどのようにとらえているかを、発達臨床心理学の用語に対する認識との関連で検討した。
3. 発達リスク評価法の開発のための基礎研究(2)-ことば・コミュニケーションの問題から-	共	2009年09月	日本教育心理学会第51回総会	共同発表者：羽川可奈子・小花和W. 尚子 発達リスクをかかえる子どもたちを保育士はどのように見ているかを質問紙調査し、言語面に焦点を当てて分析した。
4. 発達リスク評価法の開発のための基礎研究(1)-多動性や衝動性、攻撃性など行動面の問題から-	共	2009年08月	日本心理学会第73回大会	共同発表者：小花和W. 尚子・羽川可奈子 発達リスクをかかえる子どもたちを保育士はどのように見ているかを質問紙調査し、行動面に焦点を当てて分析した。
5. 青年心理学再考	共	2006年10月	日本青年心理学会第14回大会	共同発表者：植田千晶・伊田勝憲・金井篤子 研究委員会企画シンポジウム。過去の研究動向を振り返りながら、青年心理学は何をしてきたのか、また何をしてこなかったのかを明らかにし、新たな実践的応用研究がどのように展開しつつあるのかを知り、今後どんなテーマへの取組みが求められているのかを、考え直した。要旨の執筆と司会を担当。
6. 教師や保護者は「いじめ」をどう見ているか	単	2000年11月	日本心理学会第64回大会	一般の保護者や教師（本研究では高校教師）は、指導的立場にある大人と同じようないじめ観をもっているのかどうかを調査した。彼らのいじめ観は、大学生と教育指導者の中間にあることがわかった。
7. 大学生は「いじめ」をどう見ているか	単	2000年09月	日本教育心理学会第42回総会	当事者に近い立場にいる大学生が、「いじめ」をどのように見ているのかを調べた。彼らは、より現実的ないじめ観をもっていることがわかった。
8. 教師や保護者の「いじめ」観	単	1997年09月	日本教育心理学会第39回総会	指導的立場にある教師や保護者が、「いじめ」をどのように見ているのかを調べた。回答には、理想論的ないじめ観が見受けられた。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 発達障害および養育者への心理療法過程に関する研究-自閉症スペクトラム傾向と診断された男児の母子平行面談の事例-	共	2012年3月	武庫川女子大学発達支援学術研究センター平成23年度研究成果報告書 pp. 61-70.	共著者：土永幹子・西河彩恵子 自閉症スペクトラムの幼稚園男児の母子平行面談の事例報告。遊びの構造化に関して、事例をもとに考察した。
2. 研究委委員会企画第5回ワークショップ記録「青年心理学研究の現状を学ぶ(3)」	単	2008年2月	青年心理学研究第20号 pp. 183-186.	青年心理学会における研究活動の活性化を図るために開催されている研究委員会企画のワークショップの記録である。欧米の最近の研究動向について検討した、3回目のものである。
3. 日本青年心理学会第14回大会シンポジウム記録「青年心理学再考」	単	2007年2月	青年心理学研究第19号 pp. 125-128.	青年心理学の研究動向を振り返り、何をして、何をこなかったのかについて検討し、今後どのような方向で研究を進めるべきかについて捉え直したシンポジウムの記録である。
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2016年4月1日現在	日本心理学会 会員
2. 2016年4月1日現在	日本心理臨床学会 会員
3. 2016年4月1日現在	日本教育心理学会 会員
4. 2016年4月1日現在	日本健康心理学会 会員
5. 2016年4月1日現在	日本カウンセリング学会 会員
6. 2016年4月1日現在	日本臨床心理士養成大学院協議会 代議員
7. 2016年4月1日現在	日本青年心理学会 会員
8. 2016年4月1日現在	日本保育学会 会員
9. 2016年4月1日現在	日本臨床心理士会 会員
10. 2016年4月1日現在	兵庫県臨床心理士会 理事
11. 2016年4月1日現在	日本ロールシャッハ学会 会員